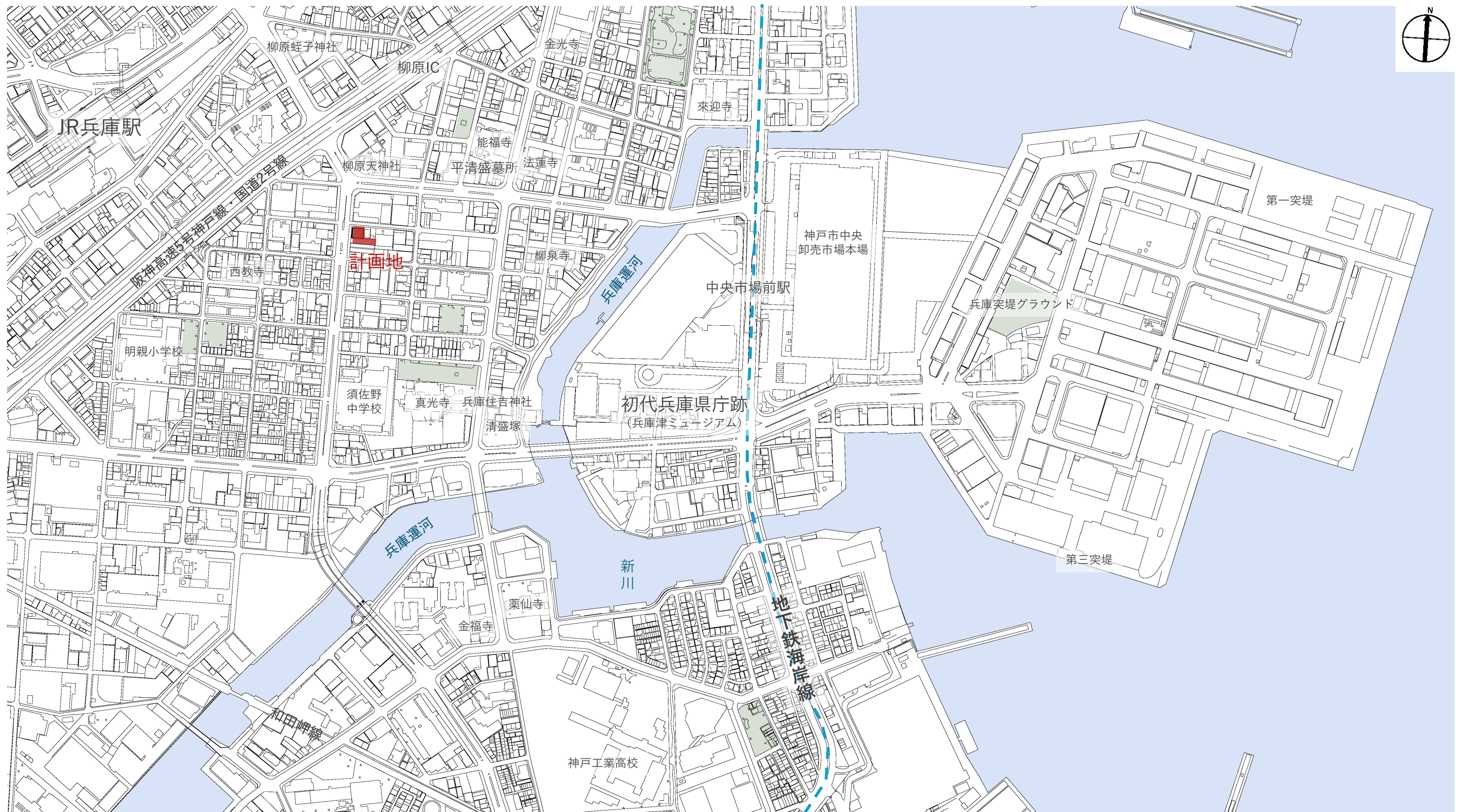


大阪避雷針工業神戸営業所

港町神戸を支えてきた兵庫の下町

- ・ 8世紀より港町「兵庫津」として栄え、船大工を源流とした木加工会社が今も多く残る
- ・ 敷地周辺は阪神大震災の被害が比較的少なく、駅前に比べて古い建物も残る、職住混在の下町
- ・ 高速道路のインターチェンジが近く、施工会社の営業所として便利な場所

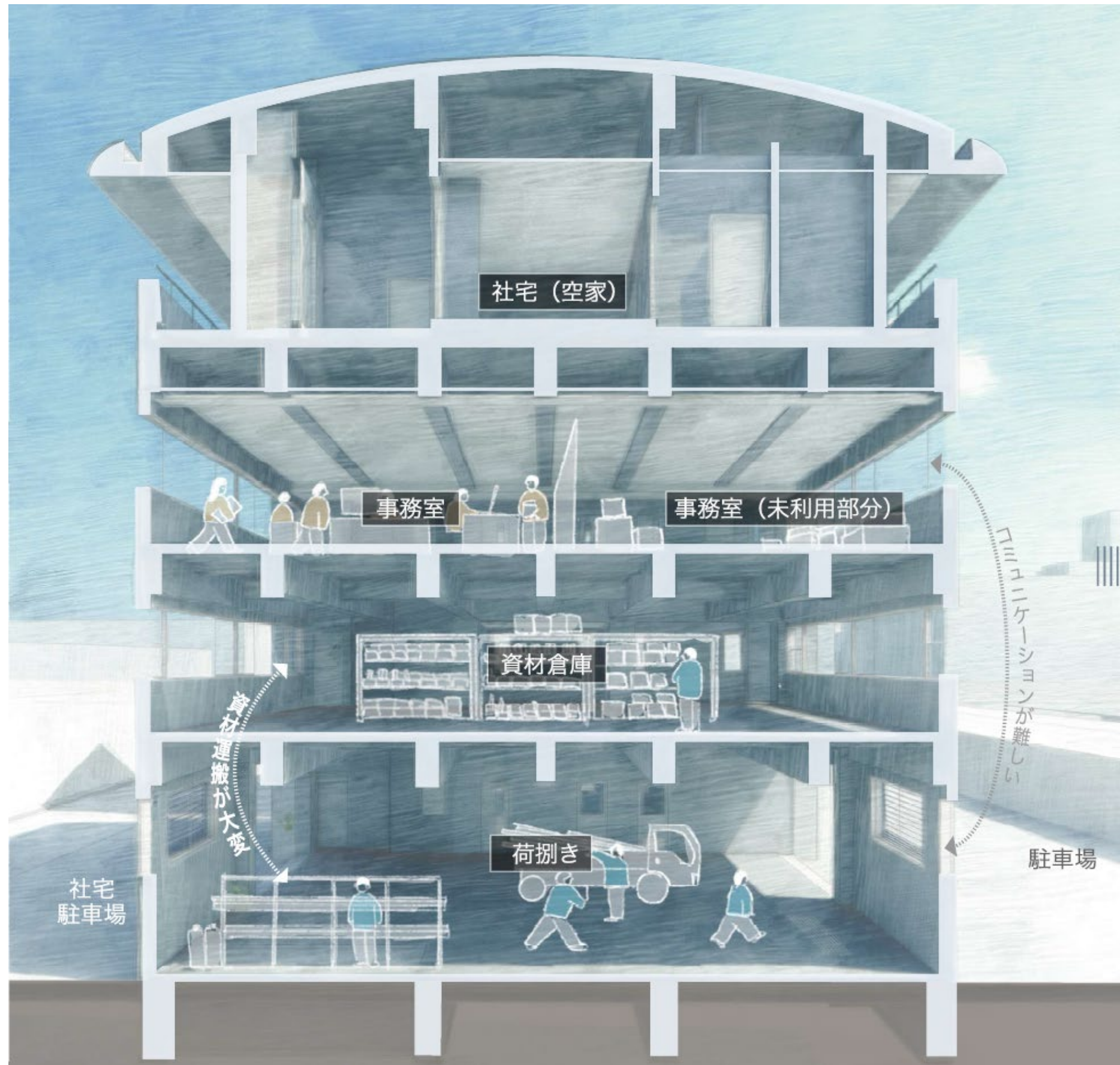


既存建物の概要

- ・ 1989年竣工（1995年に阪神大震災）
- ・ 鉄筋コンクリート造、4 階建て
- ・ 建築面積235㎡、延床面積857㎡



既存建物の3つの大きな課題



課題1 建物が大きすぎる

課題2 フロアが分かれていて不便

課題3 職場の快適性が低い



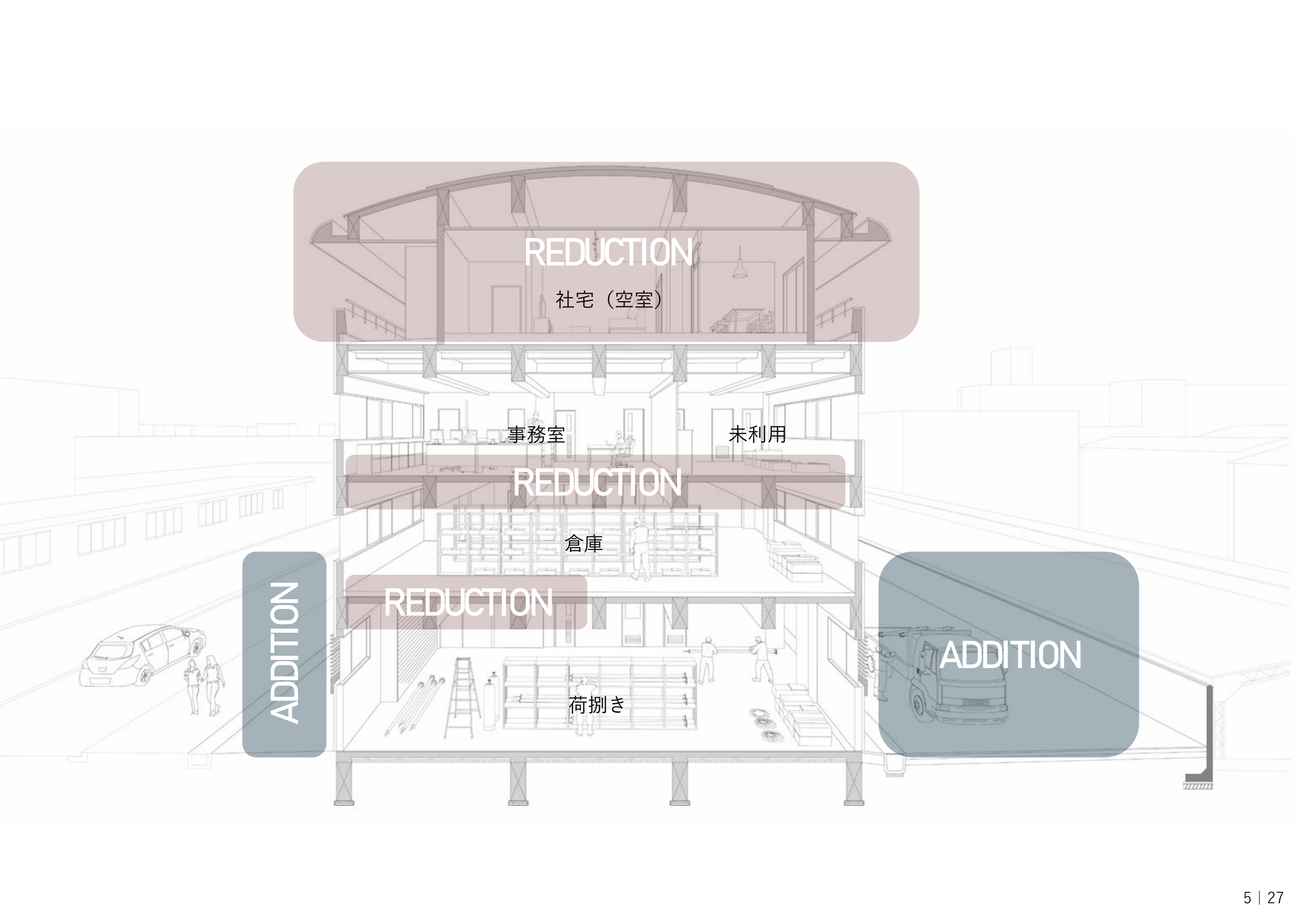
- ・ 2階建てにしたい
- ・ 延床面積を1/3程度にしたい
- ・ 1階は大きくしたい
- ・ 水回りのプラン等を現代的にしたい



「建替えるしかない…」

「いい建築を次世代に遺したい。」
という所有者の想いに対し

この建物自体を
“次世代に残すべき建築”に
つくりかえる提案で応える



REDUCTION

社宅（空室）

事務室

未利用

REDUCTION

倉庫

REDUCTION

荷捌き

ADDITION

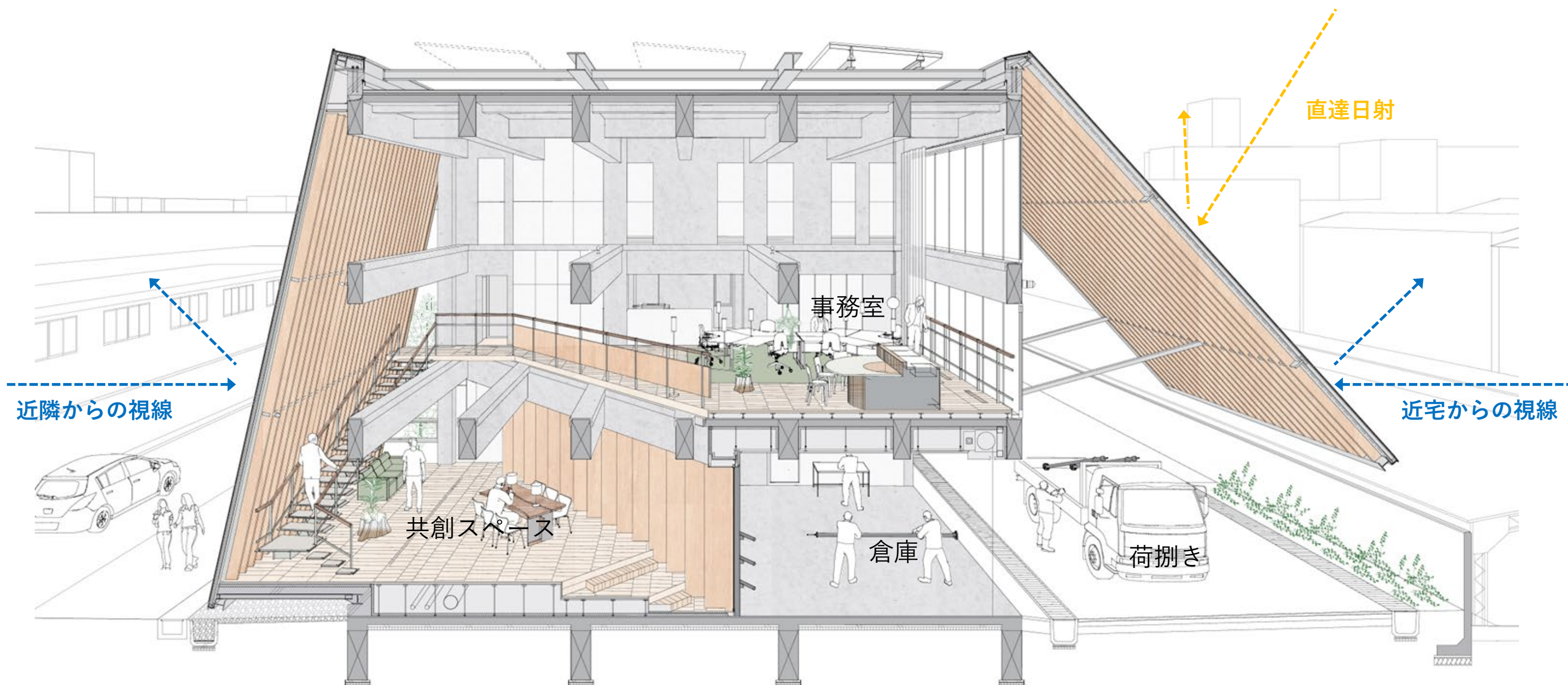
ADDITION

工期
-50%

廃棄物量
-80%

建設時CO₂
-70%

環境性能
BEI 0.40



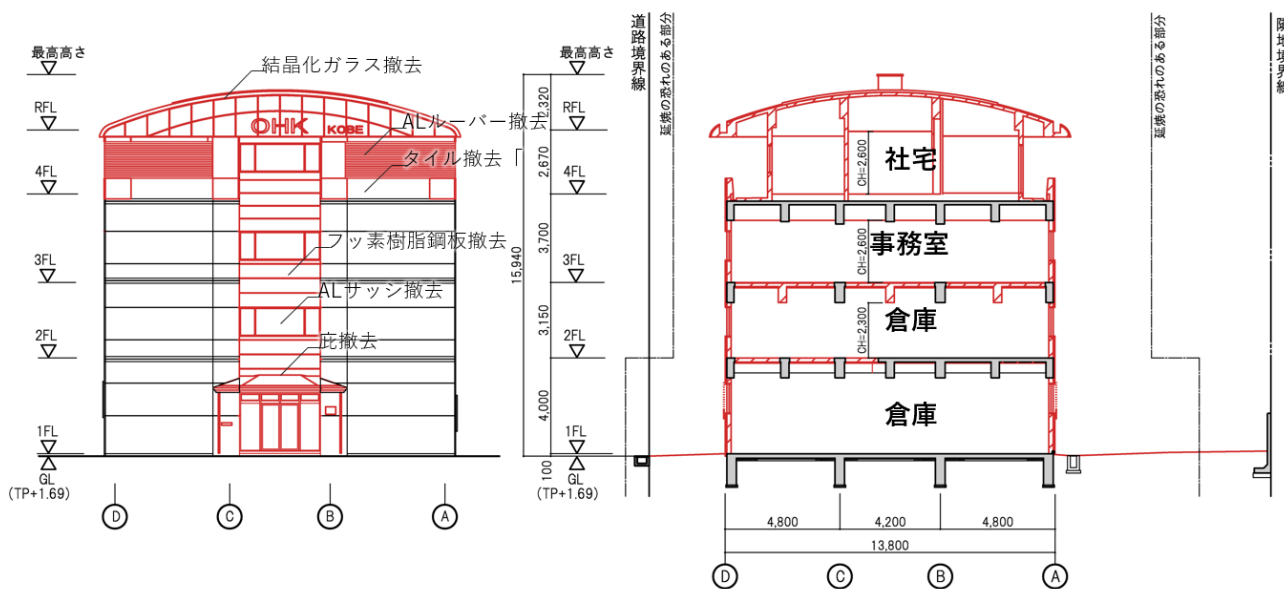
つなぐ減築、ひらく増築





改修前・撤去範囲図

— 撤去範囲



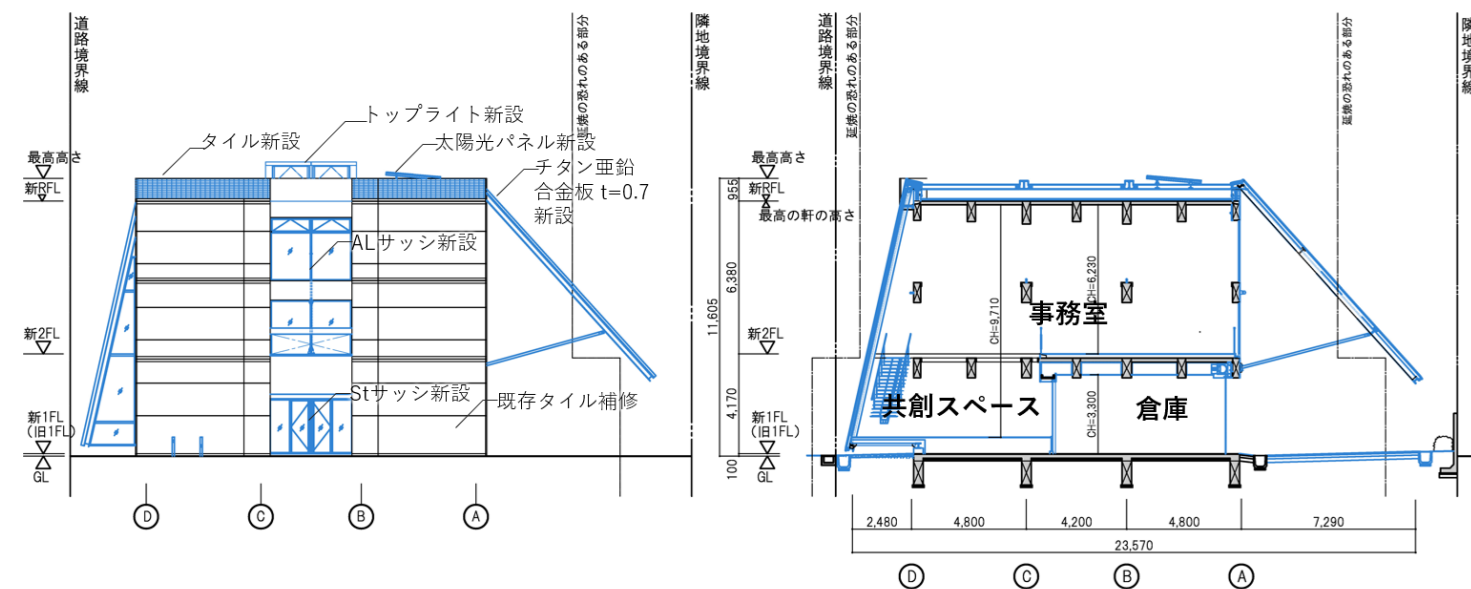
西側立面図

A断面図



改修後・新設範囲図

— 新設範囲



西側立面図

A断面図





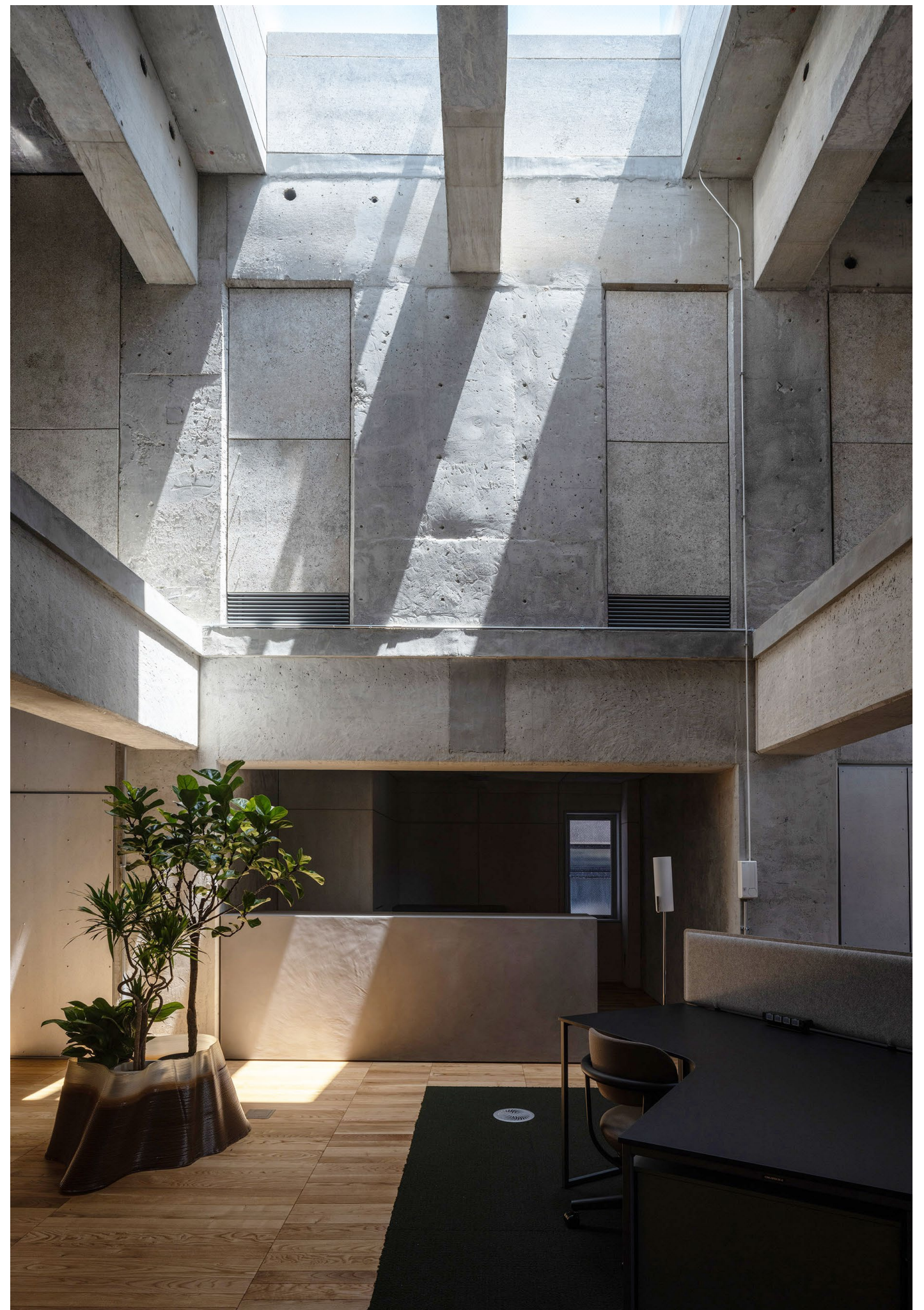
2023年10月 減築工事が終わった状況



2階 既存の大梁が残る吹抜け

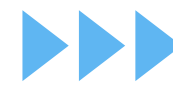
既存躯体を再編集する

東側のコア壁に沿って新たにトップライトを穿った。
執務エリアに直達光が到達しないように調整しつつ、
天気や時間の変化が感じられる空間を実現した。

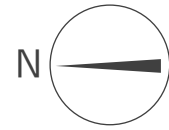


2階に新設したトップライトからの光

Before 858m²



After 472m²



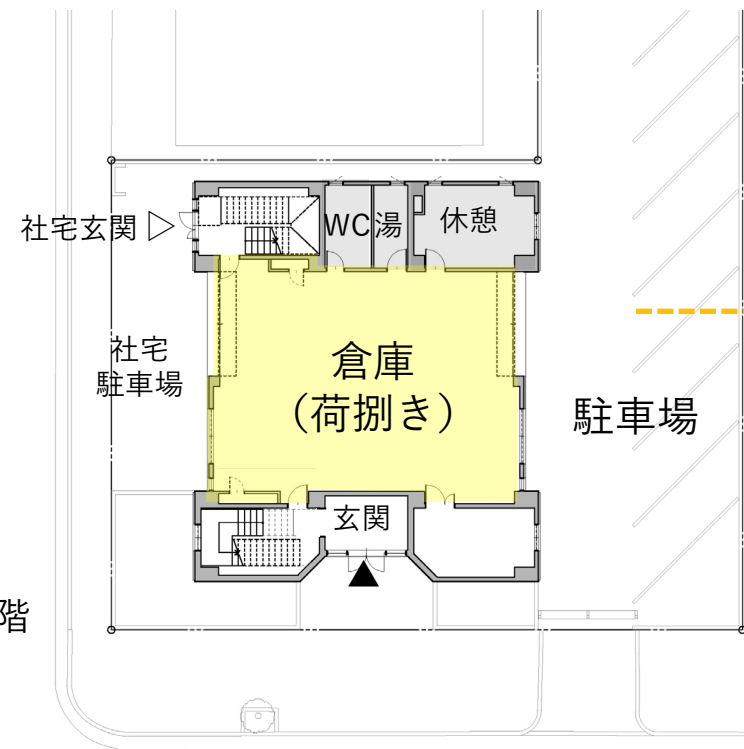
3 階



2 階



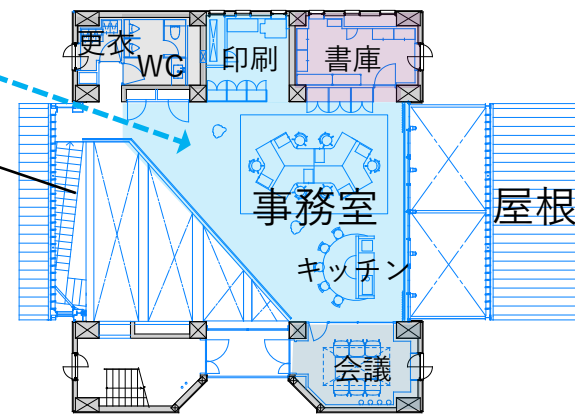
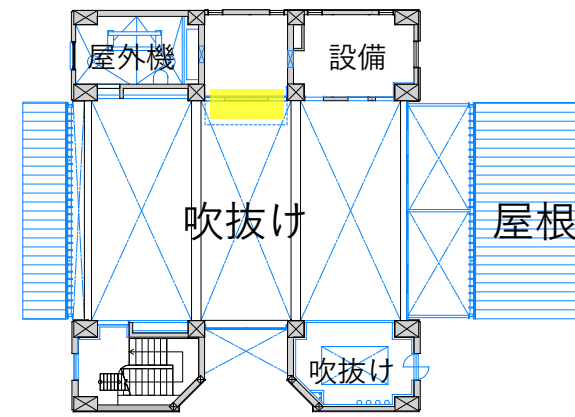
1 階



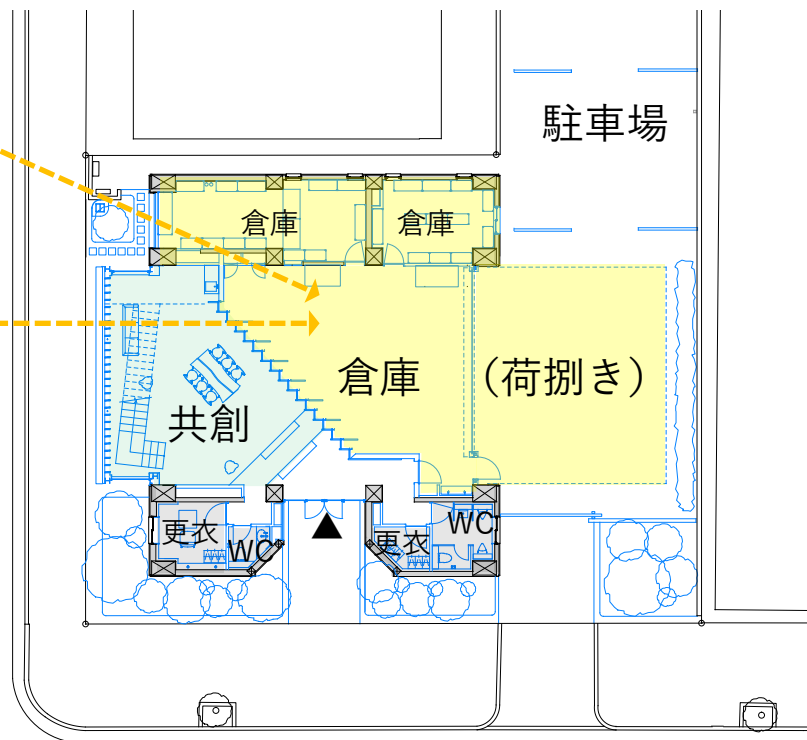
事務室を2階に

階段を吹抜けに集約

倉庫を1階に集約



2 階



1 階

① 延床面積を500m²以下、2階建てになるよう調整

② 2階居室床面積を200m²以下に → 階段を吹抜けに集約

③ 元の設計者がやりたかった“4つのコア”の構成

→ 木造での増築が可能に

→ 旧階段室を諸室利用可能に

→ 動線を改善・トップライト新設で実現

建物の履歴を遺す減築ディテール

建築確認申請の出し直しのために、減築ディテールを開発する必要が生じた。減築の記憶をポジティブにとらえ、スラブや階段の跡を遺すディテールとした。



コアの壁に階段の跡が残る



2階事務所奥の会議室

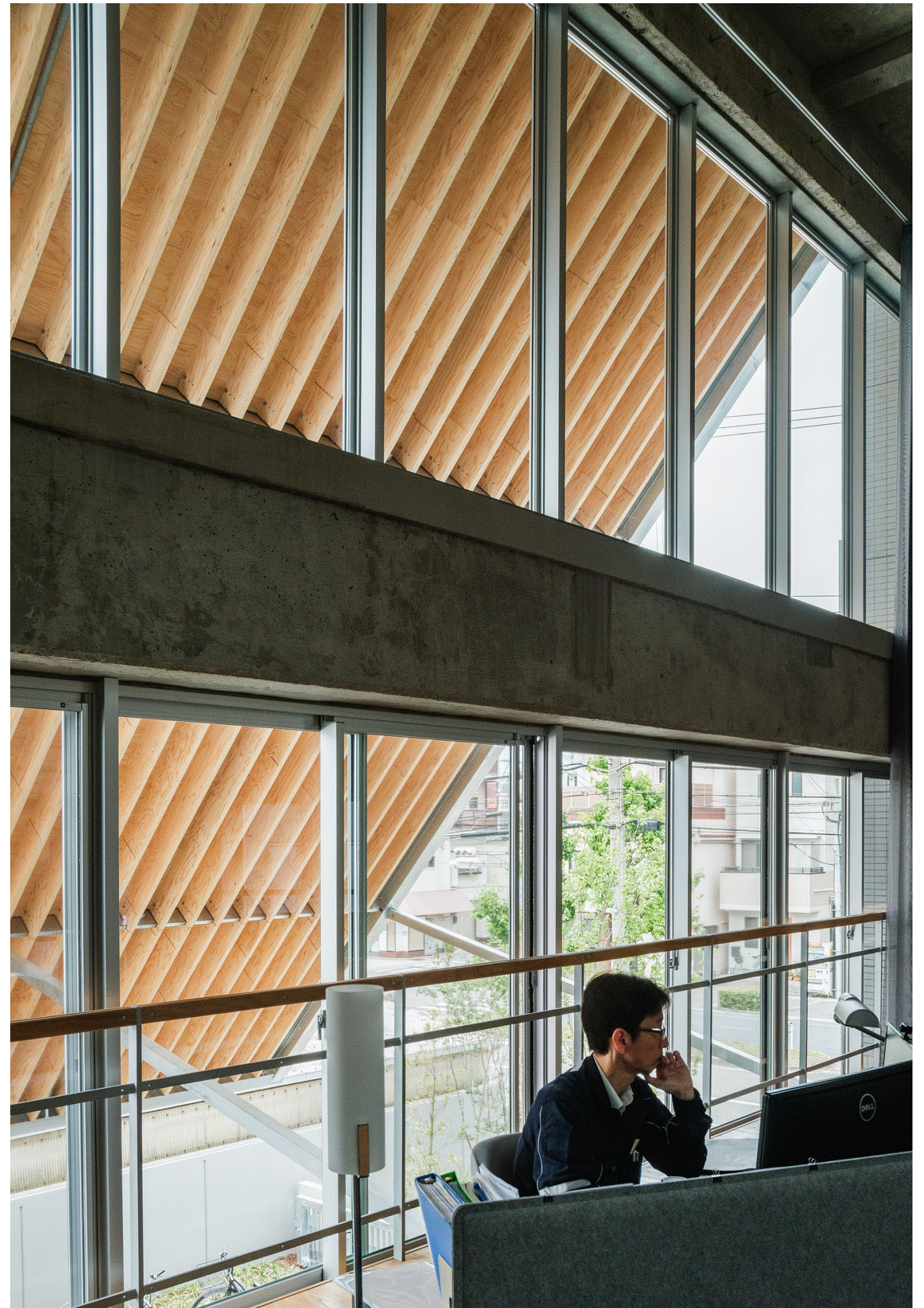


南側大庇と荷捌き

南側の大庇は、1階の荷捌きの屋根も兼ねている。所長席からはトラックの出入りが確認でき、外構の緑や街路樹が目に入るようになった。



南側大庇の外観



所長席から外を見る



仕事に寄り添う大庇

毎朝、その日に必要な避雷設備を積んで小さなトラックがここから出発する。
この作業を雨の日も日照りの日も快適に行うために大庇で荷捌きを覆った。
1階倉庫の開口は既存の2倍に拡大し、避雷針の搬出入の作業効率を高めた。

北側大庇と新設階段

北側の増築した吹抜けに階段をつくりなおした。
階段を上り下りすると、大庇の隙間から外構の
緑と街路樹が繋がって見えるようになった。



北側大庇の外観



新設階段から外を見る

倉庫をひらき、仕事をみせる

避雷設備を隠すのではなく、見えるようにして仕事に誇りを持ちたい。そのため、エントランスからは倉庫が見せないが、共創スペースからは見えるよう工夫した。間仕切りルーバーは直接避雷針ラックを兼ねている。



倉庫から共創スペースを見る



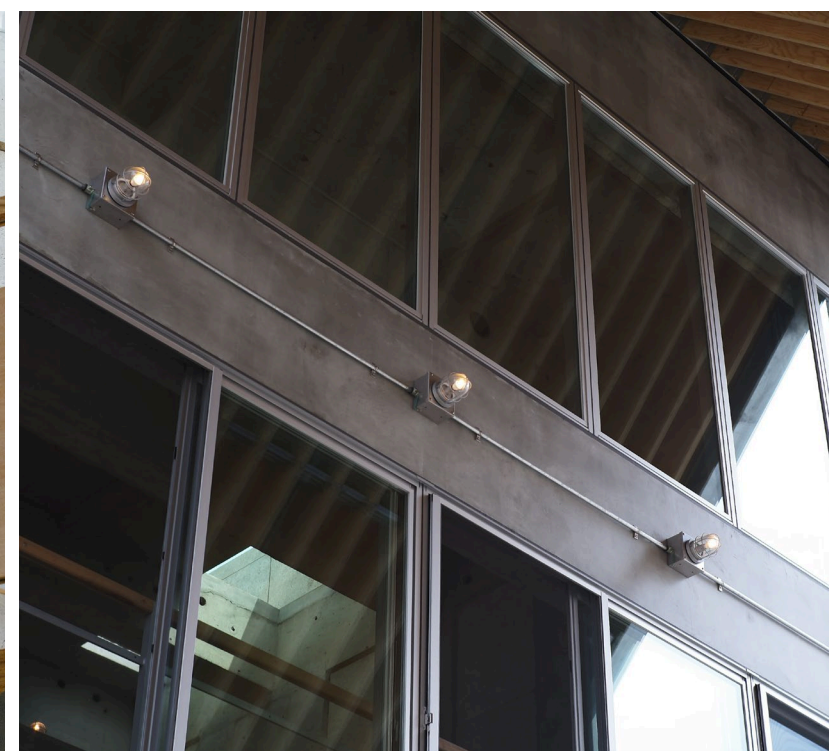
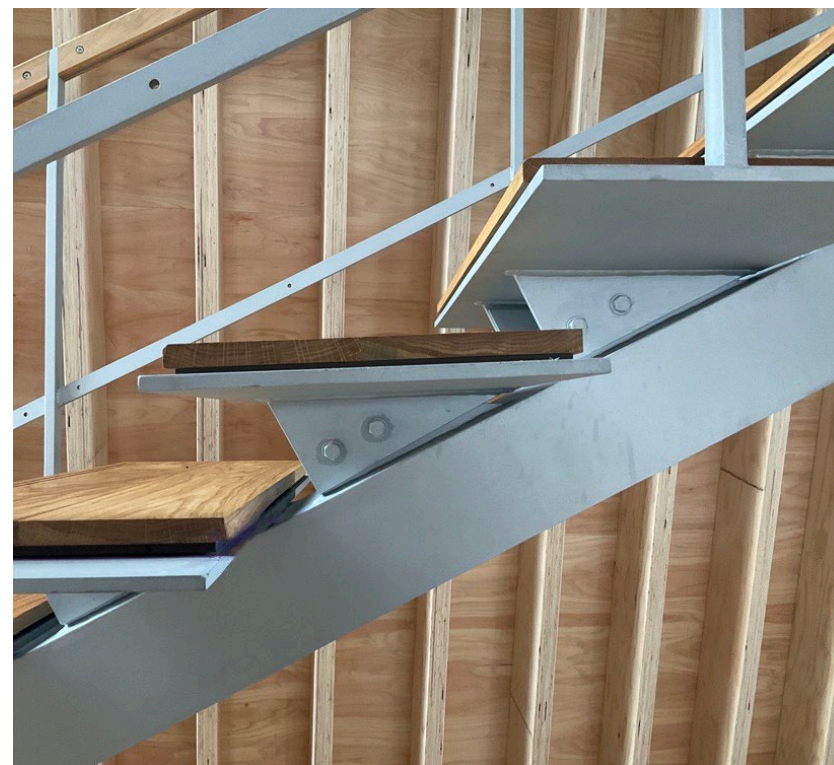
共創スペースから倉庫を見る



大事に手入れをし、時とともに価値を増す

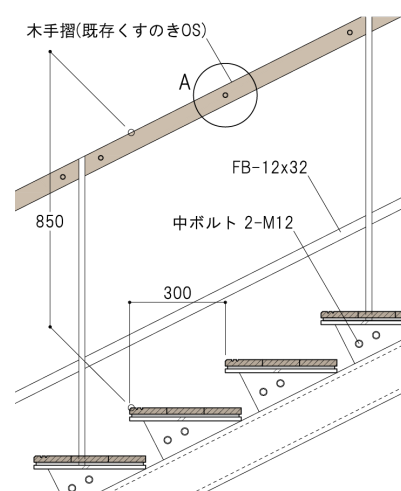


北側外観 新設屋根材は、長期間再塗装の必要がなく、経年で美化するチタン亜鉛合金

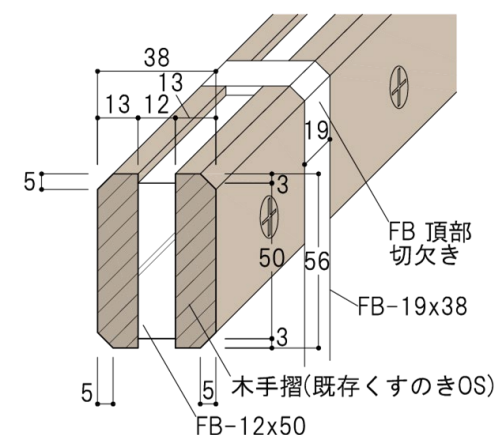


修理や解体を見すえたディテール

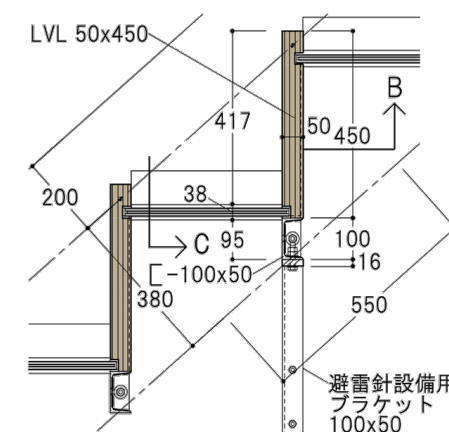
今回新設する部材は、ボルトやビスでの取り付けを原則とし、接着剤の使用や溶接を極力避けた。そして、これを積極的に見せるデザインにすることで、大事に手入れをしてもらうきっかけとした。



階段ディテール



手すりディテール



避雷針ラック兼ガラス間仕切り 22 | 27



既存樹の形を活かしたテーブル



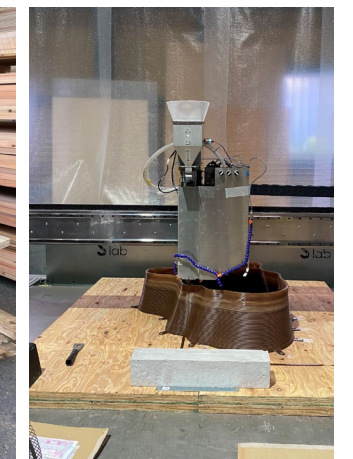
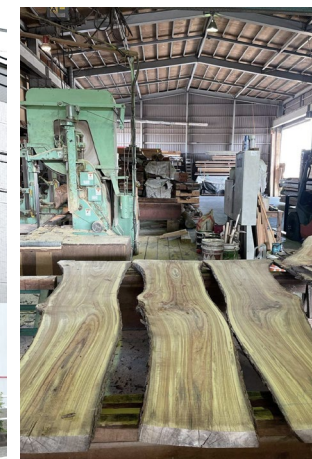
端材を活かした手すり笠木



おがくずを3Dプリントしてつくったプランター

一本のクスノキが愛着をつなぐ

35年前に植えられたクスノキ。強剪定が繰り返されて樹形の回復が困難だったことから、やむを得ず伐採したが、今回、新しい建築の手に触れるものに再生され、建築に愛着をつないでいる。

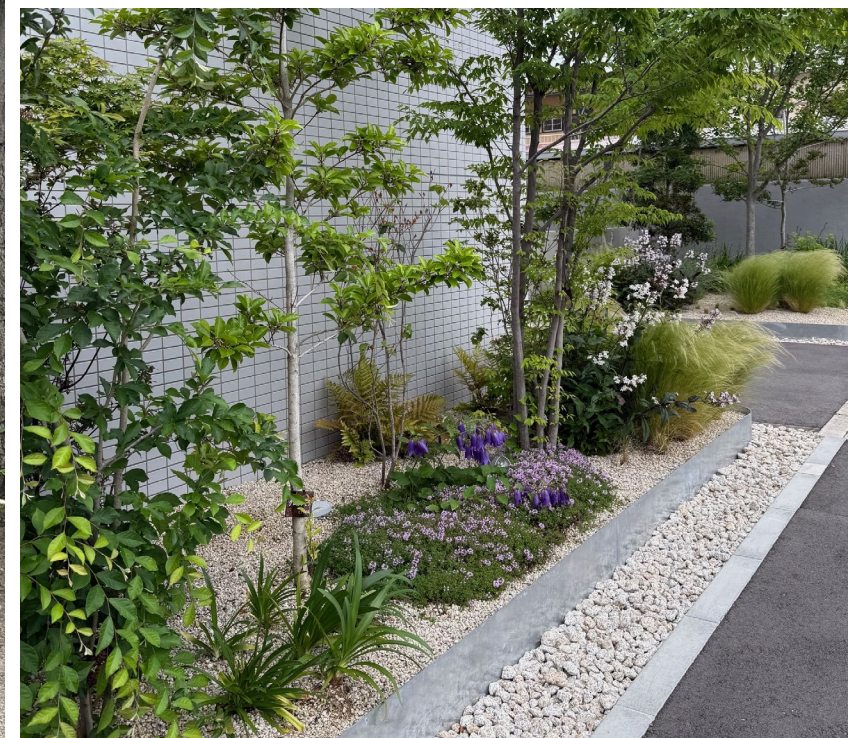
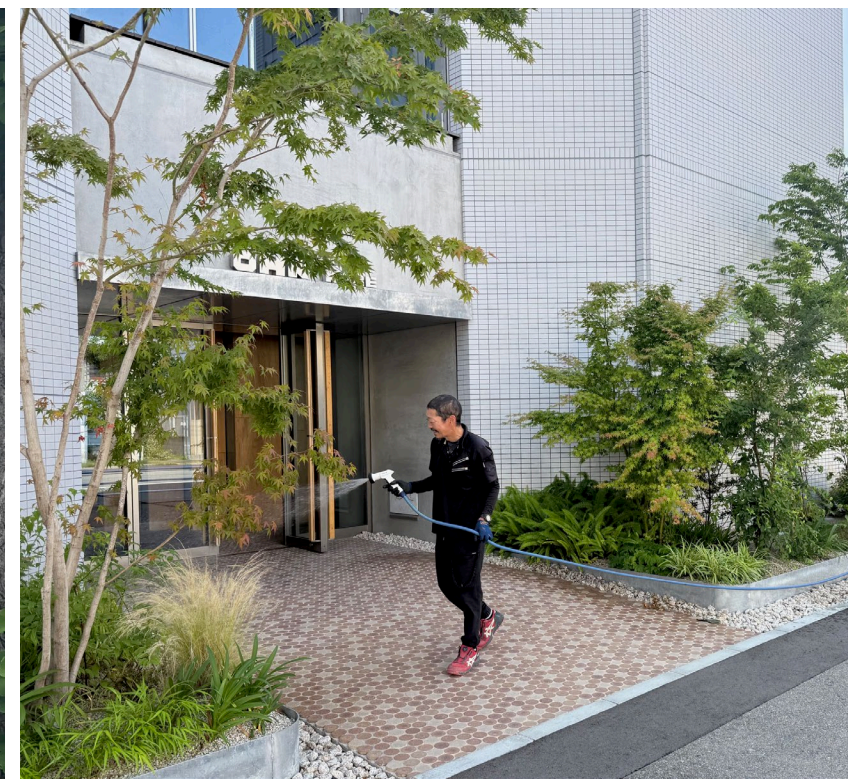




1階共創スペース 昔からあるものと新しく加わったものが交わる



竣工1年後 在来種主体の植栽は大きく成長した



竣工直後 当初は植物は小さかった

手間をかける外構

所有者から「植物は自分たちで手間をかけて育てたい。」と提案があった。毎日、水やりや草抜きが行われるようになり、従業員同士の会話が増え、近所の人からもよく話かけられるようになった。

地域の一員としての建築へ

